様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2012～2014
課題番号：２４２４３０７６

研究課題名（和文）大学教育の質的高度化のための財政的基盤についての実証的研究

研究課題名（英文）Empirical analyses on financial basis and qualitative improvement of undergraduate education

研究代表者
金子　元久（KANEKO, Motohisa）

筑波大学・＿・特命教授

研究者番号：１０１８５９３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　16,800,000円

研究成果の概要（和文）：この研究は、大学教育の質的な高度化のために、どのような財政的基盤が必要かについて実証的な研究を目指したものである。具体的には、①日本の大学の4年制大学の教員一人あたりの学生数（ST比）を、データベース化し、②大学生の学習時間とST比などの物的投入との関係を統計的に分析した。 その結果、以下の点を明らかにした。A)日本の大学におけるST比は、一般に高く、それが教育の制約になっている。B)しかし、統計的には両者の関係は複雑であり、大学の教育理念や組織的な文化が大きな役割を果たしている。C)このような観点から、個々の大学の状況とシステム全体の資源動員との関係をさらに体系的に分析する必要がある。

研究成果の概要（英文）：This study aims at analyzing financial basis for upgrading the quality of teaching and learning in Japanese universities. For that purpose, we 1) surveyed lieterature in this field, 2) constructed a database on student/teacher ratio, and 3) analyzed statistical relations between physical inputs and various variables related to teaching practices and learning behavior of students. From these analyses, we found A) the student/teacher ratios are particularly high in social sciences, B) but the statistical relations between the input variables and teaching and learning are not necessarily strong, probably indicating that organizational culture and motivation are playing significant roles, and C) this calls for more comprehensive analysis encompassing organizational aspects.

研究分野：高等教育

キーワード：大学教育　高等教育　高等教育財政

１．研究開始当初の背景

高等教育の焦点は、20 世紀における量的拡大から、21 世紀における質的改革・再編へと移りつつある。同時に政府財政は緊迫し、「市場化」の勢いが強くなっている。この中で、どのような形で高等教育の質的改革を支え、また教育機会の均等性を保つことができるのか。これは日本だけでなく、世界の高等教育政策の共通の課題となっている。

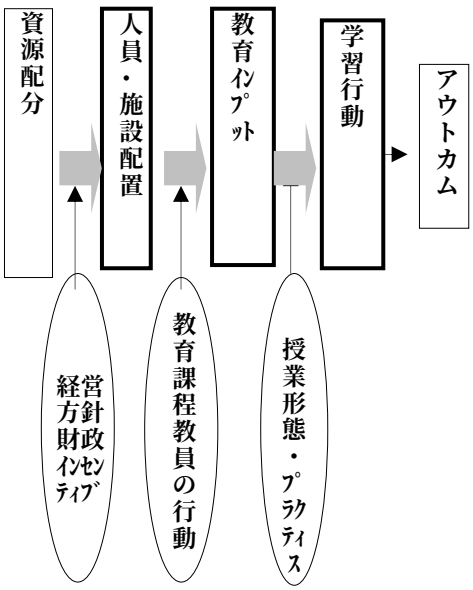
２．研究の目的

本研究はそうした観点から、①高等教育への社会的投資水準とその背景、②高等教育財政の個別大学の教育に対する影響、そして③大学内部での資源配分と教育アウトカムとの関係、を実証的に分析することによって、今後の高等教育財政のあり方をめぐる議論の基礎を形成することを目的とした。

３．研究の方法

上記の研究目的に対応して、本研究では、
(1).【マクロレベル】大学教育改善の視点からみた高等教育財政メカニズム、
(2).【メゾレベル】政府の高等教育財政政策およびインセンティブシステムとそれに呼応する大学の行動、そして
(3).【ミクロレベル】個別大学における財政支出・資源配置と教育アウトカムとの関連、という三つの視点から実証的な研究をおこなった。そのために個別大学別のデータベースを整備し、また分析作業の必要に応じてデータを作成した。

本研究における実証分析作業の中心は、個別大学の経営と教育アウトカムとを結ぶ過程の分析である。これまでの研究によって蓄積した個別大学の財務情報、教職員等の情報、および学生の学習行動調査、教員調査のデータを次のような概念モデルのもとに分析した。



４．研究成果

以上の作業の結果として以下の点を明らかにした。

(1).私立大学については、教員一人あたり学生数(ST 比)がきわめて大きい大学がある。特に大規模私大の社会系学部においてその傾向が著しく、日本の大学教育の質を考えるうえで、大きな問題となっている。

(2).国立大学については、ST は小さいものの、特に社会科学系では、大規模授業の割合が多く、比較的に恵まれた財政条件が、教育の質につながっていない。

(3).学修時間と大学の規模、選抜性等との関係を分析すると、必ずしも明確な法則性がみつからない。大学の組織としての理念、カルチャーが、大学教育のアウトカムを決定する点で大きな影響を与えている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２４件）

①金子元久「大学の教育機能　―　メゾ分析の意義」、『大学研究』４１（2015 年 3 月）、pp.3-16.　査読あり
②金子元久「高等教育研究の構図」、『大学論集』４７（2015 年 3 月）、pp44-56. 査読あり
③金子元久「大学の組織とガバナンス　ー視点と国際比較」、『大学研究』４０、(2014 年 4 月)pp.1-17.　査読あり
④ Kaneko, Motohisa. “Undergraduate Education in Japan: Observations from Student and Faculty Surveys,” Higher Education Forum, Vol.11, March 2014. pp. 21-35.　査読あり
⑤Kaneko, Motohisa “Higher Education and Work in Japan: Characteristics and Challenges,”. Japan Labor Review, Vol. 11, No.2, spring 2014, pp.5-22.　査読あり
⑥金子元久「認証評価の展望」、『大学評価研究』１２（2013 年 6 月）、pp.5-14.　査読あり
⑦金子元久「高等教育研究のインノベーション」、『高等教育研究』１６（2013 年）、pp.203-220　査読あり
⑧金子元久「高等教育財政の展望」、『高等教育研究』１５（2012 年）、pp.9-28. 査読あり
⑨金子元久「大学組織と教育組織」、『ＩＤＥ－現代の大学教育』578（2016 年 2-3 月）pp.4-11。査読なし
⑩金子元久「高大接続改革の展望」、『月刊高校教育』2016 年 2 月、pp.22-25. 査読なし
⑪金子元久「2020 年までの課題」、『ＩＤＥ－現代の大学教育』577（2016 年 1 月）pp.25-28 査読なし
⑫金子元久「国立大学の活路」、『ＩＤＥ－現代の大学教育』574（2015 年 10 月）pp.36-31.

査読なし
⑬金子元久「大学－職業リンクの再構築」、『ＩＤＥ－現代の大学教育』570（2015 年 5 月）pp.4-10. 査読なし
⑭金子元久「アメリカの教養教育」、『ＩＤＥ－現代の大学教育』565（201４年 11 月）pp.59-634-11　査読なし
⑮金子元久「国民教育の再構築」、『教育展望』（2014 年）10 月号、pp.2.3.　査読なし
⑯金子元久「大学と情報」、『ＩＤＥ－現代の大学教育』563（201４年 8-9 月）pp.。4-11
⑰金子元久「大学教育とガバナンス改革」、『私学経営』472(2014 年 6 月)、pp.2-3　査読なし
⑱金子元久「インタビュー　なぜ、大学の教育力が重要か」、『ガイドライン 2014 年度　特別号』(2014 年 4 月)　査読なし
⑲金子元久「「財務経営担当者がみた国立大学法人」、『ＩＤＥ－現代の大学教育』561（201４年 6 月）pp.65-71.　査読なし
⑳金子元久「大学教育のアウトカム」、『ＩＤＥ－現代の大学教育』560（201４年 5 月）pp.4-11　査読なし
㉑金子元久「経営課題としての学修基盤」、『ＩＤＥ－現代の大学教育』556（2013 年 12 月）pp.11-16.　査読なし
㉒金子元久「大学院の現実」、『ＩＤＥ－現代の大学教育』552（2013 年 7 月）pp.4-１１．査読なし
㉓金子元久「学歴社会の変質と教育の展望」、『教育展望』５９（2013 年 4 月）PP.18-23. 査読なし
㉔金子元久「内からの大学教育改革と大学間ネットワーク」、『ＩＤＥ－現代の大学教育』548（2013 年 2-3 月）pp.4-10. 査読なし

〔学会発表〕（計１２件）
①　金子元久「大学教育の実証研究：　到達点と課題」『日本高等教育学会大会』早稲田大学（東京都新宿区）　2015 年６月２７日
②　Kaneko, Motohisa. “ University Governance and Academic Leadership in Japan,” Tohoku University IEHE International Symposium, Academic Leadership in a Changing Higher Education Landscape: A Comparison of Australia, UK. Taiwan and Japan, 23 November 2015, 東北大学（宮城県仙台市）
③Kaneko, Motohisa.“ Financing Research Universities in Japan,” Forum on International Comparison of Financial Strategies for World-Class Universities, Peking University, October 27-28, 2015 北京（中国）
③Kaneko, Motohisa.” Internationalization of Higher Education： Challenges for Japanese Universities”, Toyo University Seminar on Internationalization, 6 October 2015　東洋大学（東京都文京区）
④Kaneko, Motohisa.　”Internationalization of Higher Education Japanese Perspectives”, The 7th Annual Koret Workshop: Internationalization of Korean Higher Education, Bechtel Conference Center, Encina Hall, Stanford University, February 27, 2015　サンフランシスコ（アメリカ）
⑤Kaneko, Motohisa.　Higher Education and Work. Annual National Conference Chinese Society for Higher Education Society、Wuhan University,1-2 November 2014　武漢（中国）
⑥Kaneko, Motohisa. “Transformation under Globalization: Internationalization and Institutional Transformation: Challenges for Japanese Universities、”Seminar on University as a Source of Innovation and Economic Development、Stanford Center at Peking University, October 20-21, 2014　北京（中国）
⑦Kaneko, Motohisa.「大学教育之研究与国际比较」、『第６届中日高等教育论坛全球化时代的大学　－大学教育・管理运营・国际化』２０１４年８月２７－２８日　同志社大学（京都府京都市）
⑧Kaneko, Motohisa.　“Globalization in Higher Education, International Symposium New Directions in Higher Education for the Development of Global Human Resources,” Organized by University of Tsukuba and SEAMEO-RIHED. 21 February 2014.　Tsukuba. 筑波大学（茨城県つくば市）
⑨Kaneko, Motohisa.　“Student Engagement in the Global Era、Japan-Australia Higher Education Seminar、Building high quality, internationalised higher education,” Strategies for universities in the Global Century　December 3, 2013。 Australian Embassy Tokyo、オーストラリア大使館（東京都港区）
⑩Kaneko, Motohisa.「大学教育之研究与国际比较」、『中国高等教育学会　高等教育学专业委员会　学术年会』 2013 年 10 月 25 日ー27 日　華中科技大学、武漢市（中国）
⑪Kaneko, Motohisa.　“Higher Education and Work in Japan -Characteristics and Challenges,” International Symposium on Strategies and Practices of University-Industry Cooperation in Higher Education, National Chi-Nan University, 27-28 April 2013、 嘉儀県（台湾）
⑫Kaneko, Motohisa.　“What We Learned from a Student Survey in Japan, International forum on Students Survey and Assessment of Chinese Higher Education, “　Sun Yat-Sen University, 2-3 April 2013.　広州（中国）

〔図書〕（計２　件）
金子元久、『大学教育の再構築』、玉川大学出版部、2013 年，219 ページ
Kaneko, Motohisa “Japanese Higher Education and the State in Transition,” in Roger Goodman, Takehiko Kariya and John Taylor eds. Higher Education and the State, 2013, Oxford: Symposium Books, pp.171-198.

〔その他〕（計 12 件）
①金子元久「大学をあらたな発展基盤に」、『日本経済新聞』2016 年 1 月 4 日, p.28. 査読なし
②金子元久「国立大学授業料の値上げ」（コメント）、『朝日新聞』2015 年 12 月 12 日。219 ページ
③金子元久「「国立大　文系再編の波　－大学が委縮する」、『読売新聞』2015 年 7 月 12 日、p.３　査読なし
④金子元久「グローバル時代の教育を考える」（インタビュー）、NHK ラジオ『夕方ニュース』2015 年 6 月 10 日 18:15～ 18:45.
⑤金子元久「実践的職業教育機関の展望」、『教育学術新聞』（2014 年 12 月）査読なし
⑥金子元久「新たな高等教育機関をどう見るか」、『教育学術新聞』（2014 年 12 月 11 日）、p.2. 査読なし
⑦金子元久「改革への困難浮き彫り」（「開く日本の大学」解説）『朝日新聞』(2014 年 9 月 5 日)、ｐ34.査読なし
⑧金子元久「学生改革、中教審院の見方は」（インタビュー）、『日本教育新聞』（2014 年 7 月 28 日,p.3.
⑨金子元久「入試改革　原点今こそ」、『日本経済新聞』（2014 年 7 月 14 日）、P.20　査読なし
⑩金子元久「大学改革　柔軟に教員参加を」、『朝日新聞』（2014 年 6 月 19 日）、p.35　査読なし
⑫金子元久「一覧情報　大学改革のカギ」、『日本経済新聞』2013 年 9 月 18 日、p.18。査読なし

６．研究組織
(1)研究代表者
金子　元久（KANEKO, Motohisa）
筑波大学　特命教授
研究者番号：10185936

(2)研究分担者
水田　健輔　（MIZUTA, Kensuke）
東北公益文科大学・公益学部・教授

研究者番号： 30443097